

記念講演

「伝える」「意味を考える」

東日本大震災・福島第一原発事故被災者の取材から

東日本大震災による福島第一原発の事故から5年以上が経ちますが、いまだに福島県では富岡町、大熊町、双葉町、浪江町で全町避難が続いており、飯館村も事実上全村避難状態です。東日本大震災の津波で行方不明となった少女、汐風（ゆうな）ちゃんを捜し続ける福島県大熊町の家族や、原発事故で全町避難を強いられた大熊町の人々への取材をおこなった写真家の尾崎孝史さんから、津波や原発事故があったあの日、原発のある町で人々はどのように行動し、何を思ったのかをお聞きします。そして機関紙や新聞で「伝える」ことの意味を考えます。



2011年11月に見つかった汐風ちゃんの体操着を持つ父の木村紀夫さん

講師

写真家 尾崎 孝史

1966年大阪府生まれ。主に沖縄、中東、福島で撮影を続ける。組作品『厳冬 警戒区域』で視点賞。『汐風を捜して 原発の町 大熊の3・11』（かもがわ出版）を出版。写真集『15年安保の肖像（仮題）』の発行にむけて全国の若者取材している。



10月15日(土) 13時開場、13時30分開会
さいたま共済会館 602 (JR浦和駅西口徒歩10分)

参加費 無料 どなたでもご参加いただけます

記念講演終了後、15時20分から第45回県本部総会を開催します。こちらもぜひご参加ください。